

中学2年1組 社会科学学習指導案

指導者 原 義 昭

調べてきたことを活用して、中国・四国地方の特色として地域のよさがどのように生かされているか共通点を追求することは、学び合いの中で見方や考え方を高め合い、自分なりの意見をもつことに有効であったか

1 単元名 他地域との結びつきから中国・四国地方をとらえる

2 授業の構想

(1) 「世界の諸地域」におけるオセアニア州の学習では、オーストラリアを事例に、「なぜオーストラリアは、ヨーロッパに代わってアジアとの結びつきが強まってきたのか」ということを、単元を通じての学習課題として追求し、学級全体の学び合いを通して解決していく方法を取りながら、自分自身の見方や考え方を深めていった。さらに、アジア重視の方向が明らかになっていくと、「アジア重視で大丈夫なのか」という問題意識を投げかけ提案することにより、再び学び合いを通して、変化していく情勢の中で立場や環境・条件を踏まえたこれからのオーストラリアの姿を討論することができた。次に示すのは、その単元の学習での生徒の変容が見えた文章である。

(生徒A：考え1) 少し不安。例えば、記事にもあったように、このようにして移民（アジアの）が襲われることがあるのなら、とても危険だし、このままアジア重視では危ない気がする。けれど逆に、オーストラリアとの貿易などの面で結びつきのあった方がよいところもあるから、少しだけ不安です。日本は資源を輸入しているため、大切な貿易相手国である。

(生徒B：考え1) 今では、アジア（特に日本、中国、韓国など）との貿易などによる交流が深くあるが、もしも、アジアの工業製品の輸出率の低下やトラブルがあったときのことを考えると少し不安。他国との交流の強まりや対立によるオーストラリアへの影響は大きいと思う。

(生徒A：考え2) 他の意見を聞いて、少し不安の方に動いた気がします。始めは不安が10%くらいだったけど、15～30%くらいになりました。人種や移民に対する偏見などもあり、宗教上の問題もあると思うので、やはり不安がつります。しかし、多文化社会を築くためになら、アジアだけでなく他の地域とも関わりをもつことが大切だと思います。貿易の面を考えると100%まではいきません。

(生徒B：考え2) いろいろな人の意見を聞いて、自分の考えは、国同士が批判をして、自分たちは何もしないというよりもインドやオーストラリアが対策を考えて、批判をなくした方がいいと思う。アジアは、経済的発展がめざましいけど、国と国の間での交易を今以上に広範囲に広げれば、これからの国同士の関係も安定性が高まると思う。

このことから、子どもたちは、まず根拠に基づいた自分自身の見方・考え方をもちことにより、他者とのかかわりの中で、揺さぶられたり、より深めたり、発展した見方・考え方をすることができるようになっており、学級全体で学び合う活動は非常に大切であると考えている。

本単元では、積極的に追求を行うことを通して、知識を関連づけたり構造立てたりしながら中国・四国地方の地域的特色について、多面的・多角的に判断し深めていく姿、自分のくらしや生き方についてこの地方の学習を通して考え、社会の主体者として社会に参画しようとする生徒の姿が見られることを願っている。

(2) 本単元は、新学習指導要領における地理的分野の内容項目「日本の諸地域」を7地方に区分し、その中で、7つに示された考察の方法のうち、「他地域との結びつきを中核とした考察」の仕方を基にしてとらえさせるものである。中国・四国地方の特色ある地理的事象や事たらを他の事象と関連づけて追求する活動を通して、地域的特色をとらえさせることをねらいとしている。他地域との結びつきに関する特色ある事象を中核として、それを歴史的背景や人々の生活や産業などと関連づけ、交通網の整備や発達が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、そのことによる地域の変容やよりよい生活が営まれるための活性化への対策が大切であることなどについて考えることが重要となる。

授業を構想するにあたって、「他地域との結びつきを中核として考察するとはどのようなことか」について、いろいろな観点から検討していった。生徒たちにとって、中国・四国地方のイメージは、都市化されているところから取り残されているイメージが強い。しかし、中国・四国地方は各地に地域資源をたくさんもっていて、大事に保存してきたり、生かしてきたことにより、他とのつながりに生かして

きた地域であるとする。ここでの学習は、中国・四国地方の他地域とのつながりを、どのような高速道があり、どこにつながっているのか、というようなことをただ単に調べてみる学習ではない。地域の産業・文化の他地域との結びつきや、その結びつきの変化を要因とする地域の変容に関する特色ある事からを中核として、それを歴史的背景や産業の進展などの社会的条件や自然環境などと関連付け、地域の地理的事象の形成や人々の営みに国内外の他地域との結びつきが深い関係をもっていることやよりよい生活を営むための努力がなされていることについて考えることからねらいに迫る学習をめざさなければならない。つまり、「他地域との結びつきから考察する」ということは、自分の生活するところだけで自分たちの生活をとらえるのではなく、現在の生活は他地域との結びつきから成り立っているということを追求することであり、他の地域との結びつきがどのように生活に影響し、またどのように変容してきたのかということを通して多面的な見方・考え方を身につけていくことであるとする。

そして、追求の手立てとなる他の地域との結びつきを見るためには、どのようにすればよいかと考えたときに、具体的事象として中国・四国地方と国外や国内の他地方の地域との結びつきが、現在のそれぞれの地域に大きな影響を及ぼしていることに視点をあてていくことが有効であるという考えに至り、次のような点を考慮しながら選択し、授業構想の段階から検討していった。

- ① 具体的事象が、自分たちの生活と関連させることができ、他の地域との結びつきにおいて明るい見通しがもてること（イメージマップにも上がっているようなものを例に）
- ② 自然環境など地理的な条件や産業・文化・歴史などの社会的条件から他地域とのつながりが見え、とらえやすいこと
- ③ 生徒に関心をもて、現在の生活に大きな影響を与え、その変容がわかりやすいこと

この3点をふまえ、具体的な事例として、島根松江大根島牡丹と海外の結びつきを取り上げ、その後他の事例を班での調べ学習で追求することにした。

以上のことから、中国・四国地方を他地域との結びつきから考察することは、この地方の特色を追求していくために適切で重要な考察の視点であり、ここで示した学習方法が、他の地域で様々な事象を学習する時に生かされ、地理的な見方・考え方が身につけていくと考える。

(3) 本単元では、中国・四国地方の特色について、具体的な事例を通して他地域との結びつきから地域的特色を追求する。学習過程の段階を大きく、＜第1次＞地域の特色を示す地理的事象を見いだす段階、＜第2次＞中核とした事から他の事象と関連づけ追求し、見方や考え方を深める段階、＜第3次＞深まった見方・考え方を学級で共有し、整理する段階の3段階でとらえ、ねらいに迫ろうと考える。

第1次では、「中国・四国地方は、どのようなところだろう」という問いかけから入り、この地方に対するイメージマップを描かせる。イメージマップに表れた断片的な知識のうち、中国・四国地方の伝統的な産業や遺産を取り上げ、分類していく中で他地域との結びつきに関連する内容を拾い上げ、他地域との結びつきに対する関心を高めさせたい。そして、島根松江大根島牡丹を取り上げ、過去と現在を比較させ、「どうやって日本一の生産をあげるようになったのだろうか」、「人々の生活にどんな影響を与えたのだろうか」という視点から考えさせ、他地域との結びつきによる地域の変容や人々の生活の変化に注目させる。さらに、人口流出、基幹産業が乏しいところで、交通以外で他地域との接点がないところと思われがちな地域が、実は牡丹栽培を通じて世界とつながっていることに気づかせたい。

第2次では、第1次での学習を受けて、大根島と同じようなところが中国・四国地方にはないのかという疑問を投げかけ、追求していくテーマを設定していく。生徒たちは、おそらく「人口減少が激しく、衰退しているところ」というイメージが強いだろうが、地域の資源を生かし、活発に他地域にはたらきかけている事例を取り上げ、追求していく。例えば、最初のイメージマップに出てきたようなものを取り上げ、①どのように生かされているか？、②なぜ（どうして）生かされているのか？～要因や影響～、③地域のよさが生かされるようになった転機は何か？、といった内容を、大きな柱となるテーマの視点として、追求段階でテーマがより具体的になっていくように調査活動を行い、課題解決ができるよう促していく。調査活動については資料の収集や活用する力が必要になってくるので、事象について十分な資料を収集できる手がかりを準備し、見通しをもった計画的な活動ができるようにする。追求テーマについてかかわりをもたせながら、まとめていくことができるようにしたい。そして、各班が調べたことを発表する。学級全員で地域のよさが生かされた要因や影響を出し合い、自分とは違った見方・考え方

をもつ他者とのかかわり合いによって、これまでの見方・考え方をゆさぶる活動場面を設定する。教科構想で述べている「第1の学び合い」にあたりと考えている。中国・四国地方への見方・考え方が深まった状態でさらに子どもの学びを深めていきたい。

第3次では、単元の大テーマとして「中国・四国地方は、どのようなところだろう」という問いかけに立ち戻るが、「どのような共通点があるか」ということを今までの学習を通して出し合い、自分の考えを深めることができるようにしたいと考える。その際に、思考・判断したことを、根拠をもって自分の言葉でわかりやすく伝えることが大切になってくる。この活動を取り入れることで、もう一度整理し伝え合ったり、自分の言葉で伝え合う、共通の課題をもっている生徒のかかわりが生かされてくると考える。

3 展開計画（全8時間 本時 8/8）

次	主な学習活動	時	具体的な学習・内容（◇は学級全体の学び合いの場面）
1	中国・四国地方のあらましを知ろう。	1	<ul style="list-style-type: none"> 山陰・瀬戸内・南四国という自然環境から見た地域構成を考える。 イメージマップに中国・四国地方はどんなところか書き出す。描き出したイメージマップをいくつか紹介し、全員で学習前の認識していることを確かめる。
	人口の推移とは逆に島根大根島の牡丹の生産が全国一になっている要因を追求しよう。	2	<ul style="list-style-type: none"> 人口の推移とは逆に、島根松江大根島の牡丹生産が全国一であることを知り、牡丹生産がさかんな理由を探る。（生産の歴史、牡丹と行商、観光、国内市場、海外市場） なぜ牡丹の生産が伸びたのか、その要因について確認する。 牡丹栽培が地域に与えた影響について、考える。
2	牡丹と同様に人口に推移とは逆に伸びているものがないか、それぞれの班でテーマを決めて調べよう。	3 4 5 6	<ul style="list-style-type: none"> 大根島の牡丹生産のように地域の資源が生かされていると考えられる例として、イメージマップに出ていたものを紹介し、生かされるようになった要因に着目してテーマを決めて調べる。（例）水木しげるロード、熊野の筆、今治のタオル、高知の坂本龍馬など 追求テーマにしたがって、班ごとに調査活動を行う。
	中国・四国地方にある地域の資源はどのように生かされているのだろう。	7	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに調べてきたことを出し合う。 ◇学級全体で、中国・四国地方はどんなところか整理し、地域の資源を生かしている共通の要因は何か考える。
3	単元を通じ、「中国・四国地方」とはいかなる地方なのかをまとめよう。	⑧	<ul style="list-style-type: none"> 単元の最初と中国・四国地方に対するイメージが、どのように変わったか班で話し合い、共通性のあるものをまとめる。 ◇学び合いにより、それぞれのイメージを出し合い地域的特色はどのようなものかを考える。 単元のふりかえり（自己評価）を行う。

4 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
3	7	◇中国・四国地方はどんなところか整理し、地域の資源を生かしている共通の要因は何か考える。	変容のポイントは何か追求する中で、様々な資料をもとにして、多面的・多角的に考察している。	ワークシート 発言 ふりかえり	中国・四国地方の地域的特色について、学級全員の学び合いを通して、他の意見も吟味して、多面的・多角的にとらえて自分の言葉で述べている。	中国・四国地方の地域的特色について、学級全員の学び合いを通して自分とは違う見方を取り入れながら自分の言葉で述べている。	中国・四国地方の地域的特色について、学級全員の学び合いを通して考えるが、自分の見方を発展させて考えることができず、自分の最初の考え方に固執している。
3	⑧	◇それぞれのイメージを出し合うことにより、地域的特色はどのようなものかを考える。		ワークシート 発言 イメージマップ ふりかえり			

5 本時の学習

(1) ねらい

中国・四国地方のイメージがどのように深まったかという学級全体の話し合いを通して、地域的特色を多面的・多角的に考察することができる。

(2) 展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価 (◎は学び合いのためのはたらきかけ)
<p>1 前時までの学習課題について確認し、本時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>・本時の学習内容を把握し、見通しをもつことができるように、前時までの学習を振り返る。</p>
<p>「中国・四国地方」とは、どのようなところだろう～イメージの深まりから明らかにしよう～</p>	
<p>2 中国・四国地方の今のイメージはどんなものか、班で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源がたくさんあるところ ・歴史的遺産や伝統産業が守られてきたところ ・世界とつながっているところ ・自然が豊かなところ など <p>3 班で話し合ったことを発表し、学級全体で地域的特色はどんなことなのか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の資源を使ってもものづくりを行い、世界にまで輸出しているところがある。 ・歴史的な遺跡などをもとに、多くの観光客が訪れているところがある。 ・不便だと思っていたところも高速交通網により、都会とつながっている。 <p>・過疎地域で生活が難しいところが多いと考えていたが、地域資源を生かしていることに気づいたので過疎に対するイメージが変わった。</p> <p>4 キャッチフレーズ作りを通して、考えを整理し、最終的な自分の意見を発表し、学級全体に広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界や日本の他の地域との結びつきをもつ地域 ・自然や歴史的な遺産に恵まれ、それを生かして生活している地域 ・地域の伝統的な産業が、自然環境や歴史的背景に関わって継承されている地域 <p>・人口も流失し産業が発展しているところから取り残されていると考えていたが、自分たちの地域にある資源（伝統産業や自然）を生かして輸出することにより世界とつながっているようなところもある。</p>	<p>・何で今のイメージになったのか理由をつけて、話し合いができるように促す。</p> <p>・自分たちの考えが明確になるように、個々の付せんを持ち寄り、班で共通性のあるものをまとめ、タイトルをつけていく。</p> <p>・最初の班は、まとめたタイトルを黒板に貼っていく。2番目以降は、前に発表したところと関連させて、考えが共通するところや異なることを説明して貼っていく。</p> <p>・自分たちの意見がどこにあるか迷っているときは、考えたもとなる意見を掘り下げ、考えていることの真意を引き出していく。</p> <p>◎「過疎」「田舎」といったイメージを提示し、今はこのようなイメージはないのかを問うことで、以前の自分の考えを思い起こし、どう変わったのかを縫合し、考えを深める。</p> <p>・黒板に貼り出された各班のつくったタイトルに関する意見を引き出しながら、さらに大きくキャッチフレーズを自分の言葉で書かせる。</p> <p>・すでに発見しているのに中国・四国地方の特色としてとらえていなかったものを、新たにキャッチフレーズとして提案して、生徒の考えたキャッチフレーズと関連させることにより、もっと多角的に考えることができるようにする。</p> <p>— 評価の観点（社会的な思考・判断・表現） —</p> <p>中国・四国地方の地域的特色について、他の意見を聞いて、いろいろな見方をすることができるようになったことを自分の言葉で述べるができる。</p> <p style="text-align: center;">【評価方法：発表・ワークシート】</p> <p>支援 多面的に見るために、なぜそのようなイメージになったのか前時までの学習に立ち戻って地域的特色を考えられるようにする。</p>